

新連載

初心者の、

初心者のための

& ポート

ヨット挑戦記

～部屋を出よう、海へ行こう～

初セーリング

in マリンボックス100 (前編)

頑張ります!



幸野庸平(このう・ようへい)
1988年生まれ。大分県出身。
Kaziの新人編集部員で、マリン素人。趣味は、水泳と読書。
9月に読んで面白かった本は、池澤夏樹「スティル・ライフ」

アウトドアよりインドア派。風雨を凌げる場所が好き。水泳、読書、映画鑑賞と、趣味は一人ですものばかりの、マリン初心者幸野が、ヨットの世界にお邪魔します。初回である今回は、神奈川県逗子市にある、マリンクラブ「マリンボックス100」で初セーリングに挑戦。比較的穏やかなゲレンデを有し、初心者向けのプログラムも充実するマリンボックス100さん。よろしくお願いします!

文=幸野庸平(本誌) 写真=松本和久
text by Yui Kono (Kazi), photos by Kazuhisa Matsumoto

百聞は一セーリングに如かず

セーリング未経験ながら船社に入社し、Kazi編集部へと配属された私。毎日のようにヨットに関する文章を読んでいるし、2カ月前にはボート免許を取得した。時間があれば、ヨットの映画や動画も観る。おかげで、最近では海やヨットのことも、少しは分かった気になってきた。しかし、どんなに本を読んだり、映画を観ても、どうしても分からないものが。それは、「ヨットの面白さ」である。

いや、ヨットがつまらないと言いたいのではないですよ。違います。そうじゃなくて、「実際に自分で体験して、初めて分かる楽しさってあるよね」って意味です。どんなに上手なグルメレポートを聞いても、実物を食するのには及ばない、というのと同じです、たぶん。

というわけで、無謀にも新連載を立ち上げ、体を張ってヨットに関わっていきます。目標は、大人になってヨットを始める人の、一つのサンプルのようなものを示すこと。そして、ベテランセーラーさんたちにとっても、クルージングのゲストや、初心者がどういうところで悩み、不安に思っているかを知る、



100円ショップで手に入れた、園芸用の手袋。のちのち、ちゃんとしたものに買い替えるとして、初めての人は、こういうので十分



上: 陸上レクチャーの様子。ここでやった動きと同じ動きを、海上でやればいいのだが、それは問屋が卸さないのが、自然を相手にするヨット
左: 講習中の様子。風とヨットの関係などが、ヨットの模型と、黒板を使って説明されるので、非常にイメージしやすい。私の後頭部に見えるのは、メガネバンド



濡れてもいいスニーカー。ほとんど問題はないが、若干滑りやすいと感じた。いつかマリンブーツを買うときの基準にしたい

私が初めて乗った記念すべきヨット、シーラーク



一助となること。至らない点もあるかとは思いますが、よろしくをお願いします!

夏だ! 海だ! 水着だ!

8月某日。私は、神奈川県逗子海岸にいた。夏——それは人々を開放的な気分にする季節。浮き足立った人々の、にぎやかな声が飛び交う海の家。汚れた心を洗



たくさんの海水浴客でにぎわう、夏の逗子海岸。ヨットのほか、SUP、水上オートバイなど、さまざまなマリンレジャーを楽しむことができる

い流す、心地よい波の音。そして、眩しすぎる皆さんの水着姿……。ああ、海っていいもんですね。ずっとこの砂浜に座って、いつまでもあの眩しすぎる光景を見ていたい。でも、それは叶わぬ夢。今日はそんなことをしに逗子まで来たのではない。初セーリングに挑みに来たのだ。

私は、あの眩しすぎる光景にさよならを告げ、本日お世話になる、海の総合レジャー施設「マリンボックス100」へと足を向ける。逗子海岸と、国道134号線を挟んですぐという、後ろ髪を引かれる暇もないほどの距離に、マリンボックス100はある。

実践を重んじるプログラム

まずは、本日のインストラクター、沼野陽人さんに対面。健康的な笑顔が印象的な、スポーツ系イケメンだ。あいさつもそこそこ

お世話になりました!



マリンボックス100

逗子海岸にすぐという好立地の総合マリンレジャー施設。ヨットスクールのほか、ヨットや水上オートバイのレンタル、艇保管、船舶免許教習なども行っている。

神奈川県逗子市新宿2-14-4 TEL: 046-872-1550 <http://www.marinebox.co.jp/>

初心者向けのヨットスクールプログラム

- 体験コース(1日): 15,000円(税込み) / 1人
- ベーシックコース(3日): 41,000円(税込み) / 1人
- ※複数人同時受講で割安に

ベーシックコースの初日と、体験コースは同じ内容。差額を払えば、体験コースを受けてから、ベーシックコースの残り2日分を追加で受講することも可能。

今月の師匠

沼野陽人さん

1972年生まれ。分かりやすい指導は、右も左も分らない初心者に大好評。高校時代は陸上部で汗を流し、大学からヨットを始める。大学では主に470級に乗り、卒業後にシーホッパーを購入して、各地への遠征や、レースを楽しむ。また、さまざまな年齢層、職業の人との交流で、勝ち負けだけではないヨットの魅力を知る。ちなみに、6年前から約20年ぶりにランニングを再開し、大会にも出ている。最近のハーフマラソンの記録は、1時間53分。



こんなことにも挑戦!

なんちゃってハイクアウト

強い風(ブロー)を受けると、フネは大きく傾く(ヒール)。その傾きを自分の体重で押さえ込むために行うのが、ハイクアウトだ。



笑顔だが、腹筋はぶるぶる震えている



「激しいヒールを、華麗なハイクアウトで抑え込む私」のように言うとカッコイイ

海へ行きましょう、という流れに。そう、マリナーボックス100の体験セーリングの最大の特徴は、できる限り多くの時間を海上で過ごすぞうという点にあるのだ!

ちなみに、前日、ハーフマラソンにエントリーしたことをすっかり忘れていて、何の準備もせずに出場した(記録は、2時間57分)ため、初セーリングを全身筋肉痛で迎える羽目に。皆さん、前日には、しっかりと休養を取りましょう。

憧れの大海原へ……!?

今回乗るのは、2人で操船するタイプの大形ディンギー、全長約5mのシーラク。安定感のありそうな大きな船体は、初心者にはぴったりだ。

いよいよ初乗艇



出発の準備をする沼野さんの横で、何もできず、ただ立ちすくむ私。早く手伝えるになりたい



まずお尻を乗せて、背中側から乗り込む。競泳用水着がつるつる滑るので一苦労



うまく乗れたら、セールとは反対側に腰を下ろす。動き回るブームに注意しないと、大変なことに



風を受ければすすい進む。私の姿が見えないが、安心して下さい。乗っていますよ



背筋も伸びているし、膝もくっついて内股気味になっている。視線も真っすぐ。猫背、がに股の私には少々つらいが、常にこの姿勢を維持し続けなくてはならない

フネを使つての陸上レクチャーも、風向きを知る方法や、ティラー(舵棒)の使い方などを軽く確認するだけ。いよいよ男の憧れ、大海原へ(実際には、三方を陸に囲まれた、小さな入江のようなゲレンデなのだが、25mプールに馴れ親しむ私にとっては、大海原くらい壮大に感じられた)。

腰まで水に浸かりながら、へっぴり腰で、不安定な船内に飛び乗り、なんとかバランスを取って、セールの出ている反対側に腰を下ろす。セールとは反対側に座る、というのが基本ポジションとなる。

ティラーを握る沼野さんがメインシートを引くと、帆がぐっと風を受けて走り始めた。いざ、出帆〜。エンジン付きかと疑うほどの力強い走りに驚きながら、ヨットはぐんぐん沖へ。はたからだと、ゆったりのんびりしているように見えるヨットだが、自分で乗ってみるとその迫力に圧倒される。すげえ、ヨットすげえ。

海岸から数百メートルほど行ったところで、沼野さんから「はい」とティラーを手渡され、操船開始。姿勢は、背筋を伸ばして、膝をくっつけるスタイル。視線は進行方向

に向け、逸らさない。何も知らない人が見ると、内股でちよつとなよとして見えるが、これがきちんとした乗り方。普段、猫背、がに股の私は、これだけで結構体力を使う。

ヨットの進み方には三つあって、風向きに対して約45度に進むのがクロスホールド、90度に進むのがアビーム、180度に進む

ヨット&ボートは謎だらけ!

ヨットに乗る前は、風って、見えないのに、どうしてその向きが分かるんだろう?と素朴な疑問を抱いていたが、乗ってみると案外分かるものです。というのも、まず、シートを逃がすとセールが風の向きに合わせて移動するし、波の形状からも判断できる。それに、風向きが変わるといったって、そんなにぐるぐるんと変わるわけでもないの、だいたいのは見当がつかず。もちろん、敏感な変化にはまだまだ対応できませんが……。



沼野さんの目が離れた隙を見て、楽な姿勢を取る私。姿勢が悪いと、急な動きに対応できなかったり、踏ん張り利かなかったりするの、気をつけたいところ

のがランニングだ。本当はもっとたくさんあるが、いっぺんには覚えられないので、便宜上、特に重要な三つだけ教えてもらう。

メインシートをゆっくりと引く(結構重い)と、帆が風を受け、進み始める。帆走する海域には、たくさんのウィンドサーファーたちがいるので、かつこいい姿を見せたいところだが、そんな余裕はない。舵さばきが難しいのだ。たとえていうなら車のバックのような感じだろうか。ハンドルの向きと、進行方向が合わない、あの感じ。とにかく混乱する。でもまあ、何度も繰り返し練習できるので、すぐに慣れます。そして、慣れると楽しくて仕方がない。走っているだけで、自然と笑顔になっちゃいます。

初めてのセーリングを終えて

初日は、真っすぐ走ること、タッキング(進行方向を変えること)の流れを覚えることに徹し、もうへとへとに(タッキングの詳しい内容については、次回、お伝えします)。



操船に慣れてくると、自然と笑顔になる不思議なスポーツ、ヨット。この気持ちよさは、乗った人にしか分からない

でも、「ヨットの楽しさ」を知ることができて、大いに満足した一日となった。そして同時に、自然を相手にするヨットの奥深さの片鱗も見たような気もした。当日は、比較的穏やかな風に恵まれたが、時折、強い風(ブロー)が吹いて、フネが大きく傾いたりする。私には、いつ風が来るのかまったく分からなかったが、沼野さんは「あと、5秒くらいしたら強い風が来るから準備してね」といった感じで、教えてくれる。まるでエスパーみたいだが、どうやら海面の色の濃淡で分かるらしい。「ほら、あそこ」と言われても、素人目にはほとんど判別不能だった。いつか分かる日が来るのだろうか。

(次号につづく)



タッキングに挑戦中。ティラーやメインシート、飛んでくるブームに気をつけつつ、常に前を見続けなくてはならない。次回、詳しくお伝えします

初心者幸野の置き手紙

初セーリングの満足感と、慣れない動きの連続による疲労とともに、家路に就く。帰りの電車の中で気づいたが、むき出しだった太ももは真っ赤に日焼け。しかも、水着を着ていた部分は、焼けずに白いままなので、さながらポーランドの国旗状態に!日焼け止めは、きちんと塗ることをオススメします。

つだけ覚えるヨット用語

① ティラー (tiller)

フネの方向を変えるための舵板(ラダー)を動かすための棒。実際に握るのは、ティラーエクステンションという、長さを足すための棒。ヨットには、とにかくたくさん棒が出てくるが、一つずつ覚えていくしかない。

② シート (sheet)

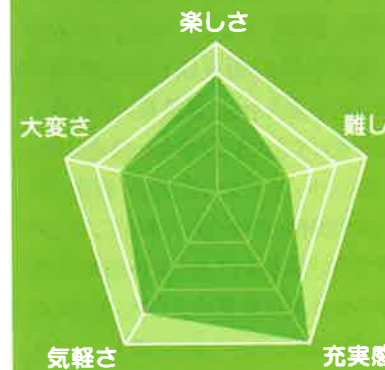
シートというと、初心者はその響きから薄膜状のものを想像しがち。そこから、セール(帆)を連想してしまうかもしれないが、そうではなくて、セールの出し入れを調節するロープのこと。メインセールを調節するのは、メインシート。初心者なら、思わずロープと呼んでも許されるでしょう。

③ シバー (shiver)

シートの引きが緩く、セールがバサバサと棚引いている状態。あえてこの状態にすることで、フネを止めることができる。逆に、帆走中にシバーした場合、帆がきちんと風を受けていないということになる。バサバサ→バサ→シバー、という響きから、妙に覚えやすいのは私だけではないはず。



心のレーダーチャート



何も分からない初心者向けに、とにかく楽しめるようにプログラムが組まれている。また、その人の上達合いに合わせてくれるので、ほとんどの人が満足感を得られるはず